

<早期発見の重要性、手遅れになる前に>

新型コロナウイルスの影響により、がん検診の受診率が大幅に減少

がん検診を通じた早期発見・早期治療で死亡リスク低減へ

昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大により、在宅ワークの増加や外出自粛、マスク生活など日常にさまざまな変化がありました。医療関連の情報を目にしない日ではなく、改めて自身の健康について考えた方も多いかと存じます。新型コロナウイルスの終息は見えず、感染予防には引き続き気を付けなければならない日々が続きますが、新型コロナウイルス以外にも気を付けなければならない健康問題があります。

新型コロナウイルスの影響で、「〇〇控え」というワードを耳にするようになりましたが、実は「**がん検診控え**」も進んでいます。公益財団法人日本対がん協会によると、5つのがん（※1）検診受診者の月別推移を全国の42支部に調査した結果、回答があった32支部が2020年に実施した5つのがん検診の受診者は約394万人で、2019年の約567万人から約30%も減少したことが分かりました（図1）。

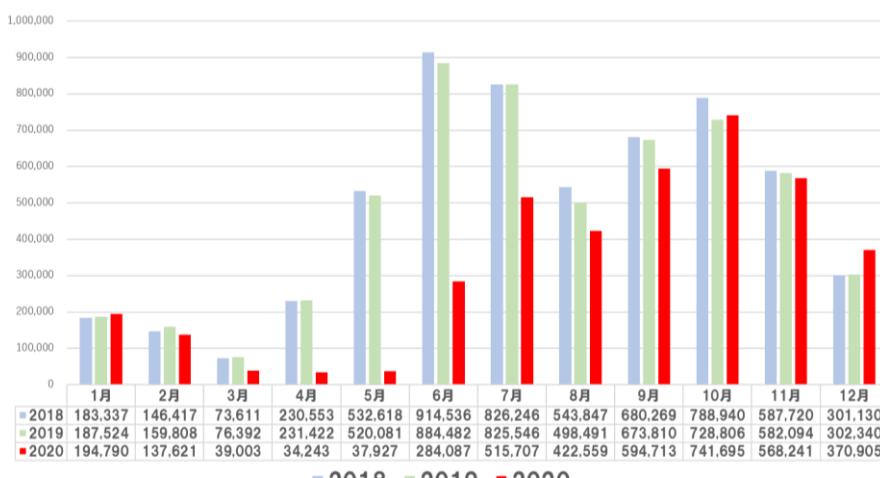


図1 5つのがん検診受診者の月別推移（約ベ人数）
(出典：公益財団法人 日本対がん協会)

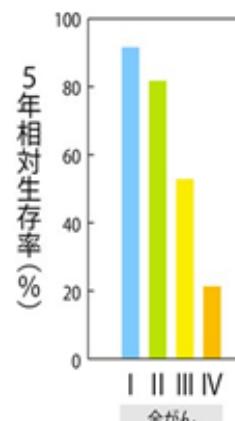


図2 病期別（※2）にみた全がんの5年相対生存率
(出典：公益財団法人 がん研究振興財団)

厚生労働省によると、日本人の死因で最も多いのがん（悪性新生物）であり、全体の3割を占めています（※3）。がんは、1981年から30年以上日本人の死因の第1位であり、注意しなければならない病気の1つだと分かります。

がんによる死亡を防ぐためにはがんの早期発見・早期治療が重要であり、そのためにはがん検診が有用となります。医学の進歩などにより、がんは現在約6割の方が治るようになりました（※4）。またⅠ期の段階で治療した場合、がんと診断されてから5年後に生存している患者さんの割合を示す5年生存率は90%以上となり、特に進行していない初期の段階で発見し、適切な治療を行うことで、高い確率で治癒することができると言われています。（図2）

コロナ禍においても、がん罹患の危険性は変わりません。検診機関は「密」の回避、検温や消毒などの感染防止策を行っていますので、受診者側ができる感染防止策に留意して、がん検診の受診を検討しましょう。

※1 厚生労働省では、5つのがん（胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん）に対し、定期的に検診を受けることを推奨しています。5つのがんは、死亡率や罹患率が高い一方、正しくがん検診を受診することで早期発見・早期治療に繋がり、死亡率を低下させることができますと科学的に証明されています。

※2 がんの進行の程度を判定するための基準。ステージ0～Ⅳまで5段階あり、病期の数字が大きくなるほど、がんが進行していることを示します。

※3 出典：平成30年（2018）人口動態統計月報年計（概数）の概況

※4 出典：国立がん研究センターがん対策情報センター（2009-2011年診断例）

■ご参考資料

<がん検診の種類について>

厚生労働省では、がん検診の効果について、評価を行い、科学的根拠に基づいて効果があるがん検診をお勧めしています。また、こうしたがん検診が市町村の事業として行われるよう、指針を示しています。

市町村のがん検診の項目について

厚生労働省においては、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」
(平成20年3月31日付け健発第0331058号厚生労働省健康局長通知別添)を定め、
市町村による科学的根拠に基づくがん検診を推進。

指針で定めるがん検診の内容

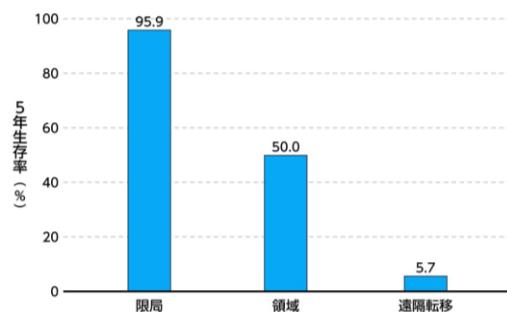
種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し実施可	2年に1回 ※当分の間、胃部エックス線検査については年1回実施可
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	質問(問診)、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ) ※視診、触診は推奨しない	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回

<胃・大腸がんの5年生存率と早期発見の重要性>

●胃がん

<https://www.olympus.co.jp/csr/learning-about-cancer/05/?page=csr>

2006~2008年に胃がんと診断された人の5年生存率
(臨床進行度別、男女計)



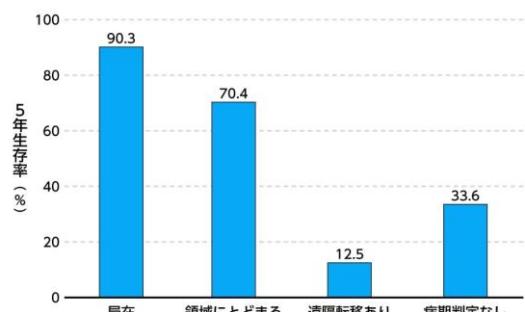
- 限局：胃がんの病変が胃の中にとどまっている状態
- 領域：胃のまわりのリンパ節からがん細胞が見つかるが、隣の臓器には病変が及んでいない、または隣の臓器に病変が及んでいるが、胃から離れた臓器には転移していない状態
- 遠隔転移：胃から離れた臓器やリンパ節で病変やがん細胞が見つかる状態

国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」より作図

●大腸がん

<https://www.olympus.co.jp/csr/learning-about-cancer/03/?page=csr>

病期(進行度)別の大腸がんの5年生存率



- 局在：大腸がんの病変が大腸にとどまっている状態
- 領域にとどまる：大腸がんの病変が大腸のまわりのリンパ節(リンパ球という白血球の集まる場所)などにとどまっている状態
- 遠隔転移：大腸がんの細胞が肺や肝臓など、他の臓器にも転移して病変をつくる状態

Siegel R, et al. CA Cancer J Clin 2014; 64:104-117.に記載の数値より作図

<胃・大腸がん検診の有効性に関する関連情報>

●有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン 2014年度版

http://canscreen.ncc.go.jp/guideline/iganguide2014_150421.pdf

●有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドライン

http://canscreen.ncc.go.jp/guideline/colon_full080319.pdf

■オリンパスにおけるがん検診啓発の取り組み

<自治体と協力した個別の取り組み>

日本全体において課題であるがん予防について、厚生労働省が策定した「がん対策推進基本計画」をもとに、各都道府県が「がん対策推進計画」を作成し、5年ごとに見直しを行いながら、さまざまがん対策に取り組んでいます。その一環として、都道府県や政令市などが企業や団体と協定を結び、各種のがん予防活動を行っています。

オリンパスは、内視鏡のリーディングカンパニーとして、19の自治体（※5）とがん対策に関する協定の締結やがん対策協議体などへの参加を通じて、各地域の状況に合わせて以下の個別アプローチを実施しています。

※5 国、広島県、兵庫県、石川県、宮城県、秋田県、奈良県、福島県、茨城県、青森県、長野県、大分県市、静岡県、岩手県、栃木県、熊本市、仙台市、さいたま市、新潟市

① 個別受診勧奨（オリンパス「やさしい内視鏡検査小冊子配布）

市区町村が住民へ送付する胃がん検診や胃がん・大腸がん精密検査の案内にオリンパスが作成した「やさしい内視鏡検査」小冊子を同封。

イラストや図、グラフを活用しながら、がんの現状や公的ながん検診の流れ、内視鏡検査の説明、早期がんの治療などについて、分かりやすく説明。



② がん検診啓発イベントへの出展

都道府県や政令市主催のがん検診啓発イベントに協力し、大腸を模したトンネル型バルーン内をくぐって疾患を探す大腸がん検診啓発アトラクション「COLON CAVE（大腸洞窟）」や内視鏡のハンズオン展示を実施。

親子層が楽しみながら、がんの早期発見・早期治療の大切さを学んでもらうことが目的。



<一般市民への直接の取り組み>

① 健康情報サイト「おなかの健康ドットコム」運営

医師監修の下、健康応援ポータルサイト「おなかの健康ドットコム」を運営。
分かりやすいイラストや動画を用いて、おなかの病気やがん検診、内視鏡検査や治療による病気の早期発見・早期治療の大切さについて、多くの方々に理解を深めていただくことを目指している。

►おなかの健康ドットコム：<https://www.onaka-kenko.com/>



② 【7月14日は内視鏡の日】内視鏡検査に関する意識アンケート

公益財団法人内視鏡医学研究振興財団により制定された、7月14日「内視鏡の日」に合わせて、内視鏡検査に関する意識アンケートキャンペーンを実施し、「おなかの健康ドットコム」にて公開している。

►2019年内視鏡検査に関する意識アンケート結果：

https://www.onaka-kenko.com/endoscopy/enquete/er_00.html



③ がん検診啓発活動「ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」への協賛

「ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」のオフィシャルメーカーとして、同活動を推進するNPO法人ブレイブサークル運営委員会の活動趣旨に賛同し、さまざまな支援を行っている。

【ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン】とは

2007年に、大腸がんで亡くなる方を減らしたいという思いからオリンパスがスタートし、複数の企業と連携して活動を実施。2009年以降はNPO法人ブレイブサークル運営委員会が活動推進の中心となり、行政と連携しながら、検診対象世代である40歳以上の男女に、大腸がん検診の受診を呼びかける活動を行っている。

【過去のイベント事例】

・大腸がん検診受診勧奨資材

NPO法人ブレイブサークル運営委員会が全国の自治体へ提供している大腸がん検診啓発小冊子やポスター、大腸がん撲滅トレイットペーパー、大腸がんクイズラリーなどの制作をオリンパスも支援している。

・Tokyo健康ウォーク

東京都とNPO法人ブレイブサークル運営委員会が大腸がん検診啓発目的で例年11月に共同開催しているウォーキングイベント。ウォークコース上で実施する「大腸がんクイズラリー」や医師によるトークショー、東京都が行う無料大腸がん検診を通して、大腸がん検診の大切さを広く市民に呼びかけている。イベントを盛り上げるスタッフとしてオリンパス社員がボランティアで参加している。

・大腸がん検診啓発イベント

NPO法人ブレイブサークル運営委員会が厚生労働省の後援を得て、東京都内で大腸がん検診受診を呼びかける街頭イベントに協賛。「大腸がんクイズラリー」を実施し、大腸がん検診の大切さを市民へ伝えている。アテンド者としてオリンパス社員がボランティアで参加している。

►NPO法人ブレイブサークル運営委員会HP：<https://www.bravecircle.net/>



「Tokyo健康ウォーク2019」に特別協賛し、社員がボランティアとして参加

■オリンパス社内におけるがん検診啓発の取り組み

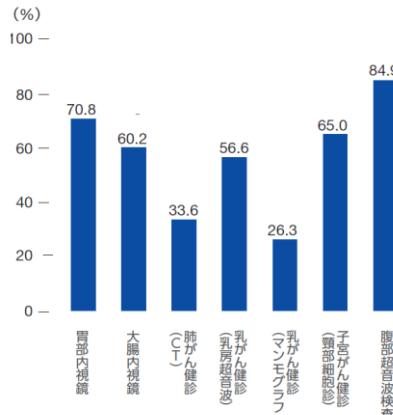
<社員向けの取り組み>

① がん検診の充実化

オリンパスでは、従業員に対してもがん早期発見のために内視鏡などを用いた「がん検診」の充実に取り組んでいる。従業員の内視鏡検査は健康保険組合が費用補助をしており、高い受診率であることが特徴。また、検診対象者を前回の検査から一定の条件で抽出し、当年度のがん検診受診を勧奨する「コール・リコール」という取り組みも実施している。

►胃がん検診全体（内視鏡orペプシノゲン）85.4%、胃部内視鏡70.8% （全国の胃がん検診受診率 42.4%（※6））

►大腸がん検診全体（内視鏡or便潜血）81.6%、大腸内視鏡60.2% （全国の大腸がん検診受診率 44.2%（※7））



オリンパスのがん検診受診率
(経年受診率、2019年度)

検査項目	対象	健保費用補助	受診勧奨 ^{※8} 年
胃がん（内視鏡）	35歳以上	全額	2年に1回
胃がん（ペプシノゲン検査）	35歳以上	全額	胃内視鏡を受診しない年
大腸がん（内視鏡）	35歳以上	全額	3年に1回（40歳以上）
大腸がん（便潜血検査）	35歳以上	全額	大腸内視鏡を受診しない年
乳がん・子宮がん	全年齢女性	全額	2年に1回
前立腺がん（PSAマーカー）	50歳以上男性	全額	2年に1回
腹部超音波検査	40歳以上	全額	2年に1回
肺がん（肺ヘリカルCT）	40歳以上	半額 (上限5,000円税込み)	個人の判断で受診

オリンパスのがん検診メニュー

※6,7 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」調査より。40~69歳、過去1年間の受診率（https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/dl_screening/index.html#a16）

② がん教育eラーニングの実施

国内オリンパスグループ 全従業員を対象に、がんの正しい知識と検診の重要性を啓発する目的でeラーニングを毎年実施。

►2020年度の受講率：97.3%、理解度：99.7%

③ がん罹患経験のある著名人や医師によるがんセミナーの実施

がん検診に対する意識変容につなげる目的で、著名人や医師によるセミナー毎年開催。

(これまでの講師は、麻木 久仁子さん、生稻 晃子さん、東海大学医学部の立道 昌幸先生、など)

►会津工場の場合…乳がん検診：67.1%→68%、子宮がん検診：62.9%→63.2%、で受診率が向上。

►青森工場の場合…乳がん検診：53.4%→57.9%、子宮がん検診：48.8%→53.5%、で受診率が向上。



④ オンライン禁煙プログラム

肺がんをはじめとするがんの罹患リスク低減や生活習慣病改善のため、禁煙サポートとして「オンライン禁煙プログラム（禁煙治療）」を導入。参加費用（57,000円）は、会社（健康保険組合）が全額負担している。

2019~2020年の1年間で禁煙した社員は347名。

►オリンパスの喫煙率：2018年22% ⇒ 2020年16-17%

►オンライン禁煙外来は2017年度に認可された診療で、通院することなくオンライン（PCやスマホ）で診療を受け、禁煙治療薬が指定場所に宅配される。

オリンパスについて

オリンパスは医療分野、ライフサイエンス分野、産業分野で、お客様のご要望に沿ったさまざまなソリューションを提供しています。病気の予防・診断と治療に貢献する、生命科学の研究に寄与する、そして、人々の安全を守る。100年を越え、オリンパスはこれからも、世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現のために、歩みを進めてまいります。内視鏡事業においては、医療分野における革新的な技術と製造技術で医療従事者のみなさまとともに歩んでまいりました。診断そして低侵襲治療において、より良い臨床結果を生み、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康やQOL向上に貢献してまいります。1950年に世界で初めてガストロカメラを実用化して以来、オリンパスの内視鏡事業は成長を続けており、現在では、軟性内視鏡、硬性鏡、ビデオイメージングシステムから、システムインテグレーション、修理サービスに至るまで、さまざまな製品・サービスで医療に貢献しています。詳しくは www.olympus.co.jp/ をご覧ください。

【報道関係者様のお問い合わせ先】

オリンパス株式会社 コーポレートコミュニケーション 報道担当 足立・井上

TEL：080-2175-5297／070-2629-2739 FAX：03-6901-4344

E-MAIL：kei.adachi@olympus.com／natsuki.inoue@olympus.com